

サシバ

Butastur indicus (Gmelin)

タカ目タカ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

夏鳥として丘陵帯に渡来するタカで、近年個体数が著しく減少している。人間の生活圏に近い所に生息するため、生息地が開発されやすく生存がおびやかされる。

形態

全長約50cm。翼開長約110cm。雄よりも雌が少し大きい。ハシボソガラスぐらいの大きさのタカで、翼は細長く尾は中ぐらいの長さである。頭部は褐色で白い眉斑をもつものが多い。体と翼上面は赤みのある褐色で、胸は褐色、腹はクリーム白色で暗褐色の横斑が密にある。尾は灰褐色で3本の黒帯がある。喉は白く中央に1本の縦筋がある。

国内分布

夏鳥として渡来し、本州（秋田県、岩手県以南）、伊豆諸島、四国、九州で繁殖する。南西諸島では、渡りの際に通過し、少数は越冬している。

県内分布

夏鳥として平地から山地帯に生息、繁殖する比較的ふつうのタカであったが、全県下で個体数の減少が著しい。秋期の9月下旬から10月上旬にかけて、能美市観音山や加賀市刈安山などで南に渡る個体が多い日には400羽近く確認できる。

生態

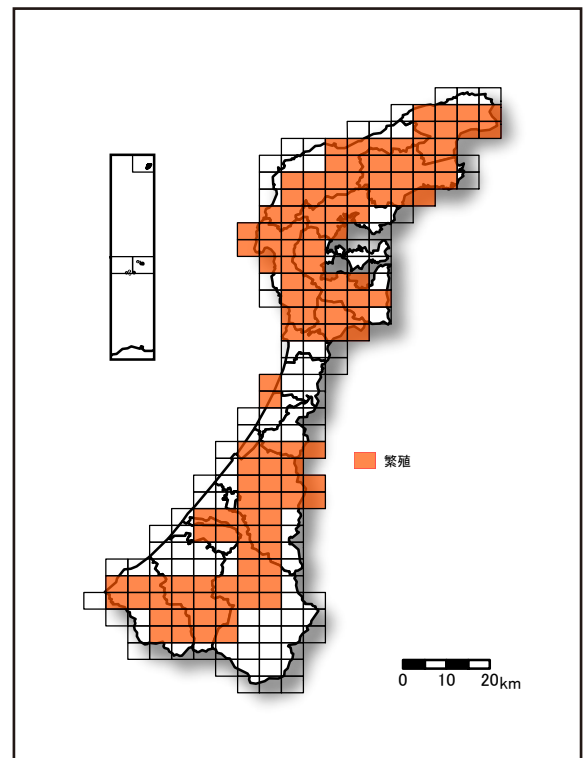
4月初旬に渡来し、産卵期は5月頃で、一腹卵数は2～4個、抱卵日数は30日前後、孵化後約35日で巣立ちする。ヘビ、トカゲ、カエル、ネズミ、バッタなどを餌にする。

生息地の条件

平地から標高800mくらいまでの、主にアカマツからなる雑木林などで繁殖する。狩り場は水田、畑、湿地などの開けた土地であり、谷に田が入り込んだ地域などが好まれる。人家に近い里山に生息するため、人間活動による悪影響を受けやすく、人為的影響が少ないことが条件となる。

生存の危機

人家に近い里山に住むため、開発など人為的影響を受けやすい。また近年は、里山の水田放棄によって餌場が減少し、大きな影響を受けている。(A, B)



県内の分布